

## ITの進歩と重度障害者のかかわり

兵庫頸髄損傷者連絡会 島本 卓

このたび「ITを使ったごみ分別支援研究」(以下、ごみ分別支援システム)について、みなさんにご紹介します。

これは、神戸大学 野田准教授のグループが文部科学省科学研究費(科研費)の助成を受けて行う、高齢者・軽度認知症高齢者が対象の研究です。

これまでの研究調査で、高齢者にはごみの分別にも困難があることが判明しました。これら日常生活での困りごとが増えると、住み慣れた自分の家で暮らすことが出来ません。そこで困りごとを減らす目的でこれらの研究が始まりました。

私は頸髄損傷C4(四肢麻痺)でありながらも、モバイル環境を使ってごみ分別支援システムの回答者として参加協力をしています。

ごみを減らそうと世の中で言われていますが、多くのごみが出されています。今後、循環型社会にむかうために、きちんとしたリサイクル・再資源化をして、地球の資源および地球の環境を守っていかねばなりません。しかし今の高齢者には可燃やプラといった何種類もの表記は複雑で分別がしにくいのです。そのことから、分別に困らないために「ごみ分別支援システム」が開発されました。

私は、はじめてお話を聞いた時は「私にもできるの?」と不安でしたが、やっていくうちに思っていたよりも簡単にできました。まず、回答者である私のパソコンメールアドレスを登録します。(パソコンとスマートフォンを同期することで、メールを確認することができる。)

他にも数名の回答者がおられます。高齢者が分別に困ると専用台に物を置き、回答者全員にお知らせメールが届くようになっています。(図1)

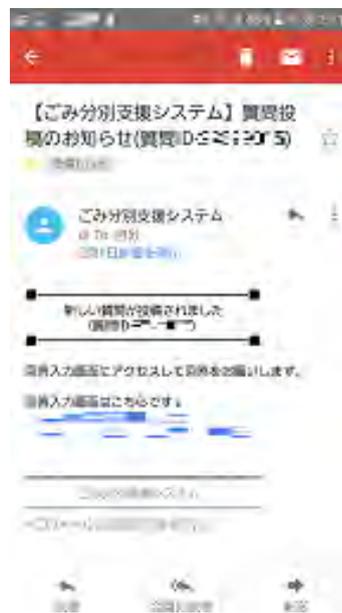


図1 携帯で確認(質問メール)

届いたメール内にあるURLにアクセスすると、分別に困った物が写真で表示されます。写真を見て、回答者が分別項目から選択し、回答をします。

(図2) そうすると、その回答が質問者の見る機器に表示されるといったシステムの流れになります。メールに気づいて確認をすると、すでに回答されている場合もあり、その場合は「回答済み」



図2 可燃、プラ、資源ごみ、その他から回答

となり、分別項目が表示されません。(図 3) また、回答者が数名いることにより、素早い回答が返すことができます。それにより、高齢者が分別に困らないように考えられています。



図 3 分別したい物に回答後

私の場合、自宅でメールの確認と回答をパソコンで行っています。画面も大きくて見やすいので、確認もとてもしやすいです。またパソコン内の拡大鏡も使いながら、回答をしています。(図 4)

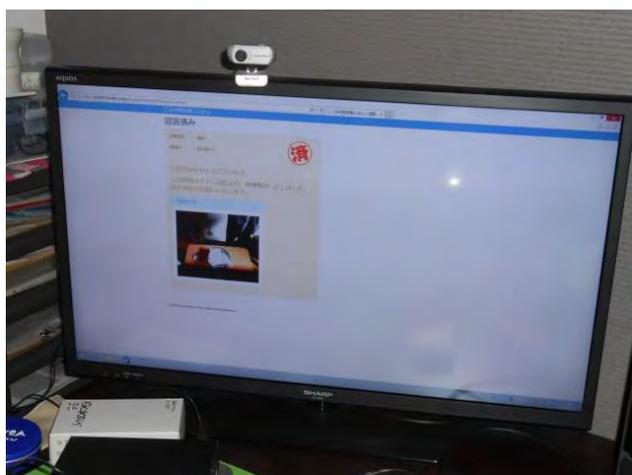


図 4 パソコンだと写真が見やすい

次に、外出先でもメールの確認とアクセスをスマートフォンで行っています。私が回答する際に課題がありました。それは、スマートフォンの画面が小さく、分別に困った物の写真が見づらいと

いうことです。スマートフォンには、画面に指を使って拡大させる方法があります。しかし、四肢麻痺であることで、親指と人差し指を動かすことができなく拡大させることができません。(図 5)

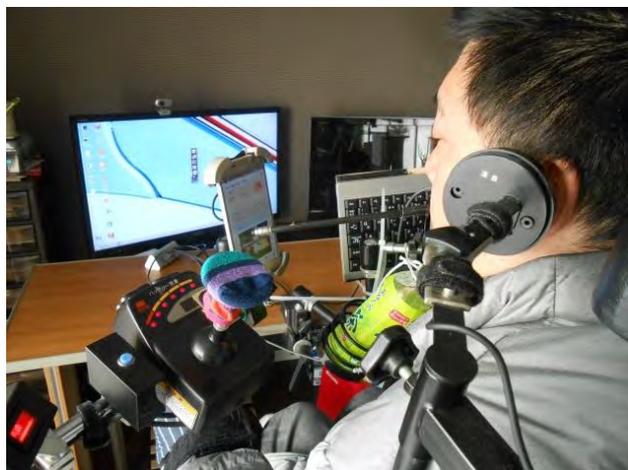


図 5 携帯で回答中

ごみ分別支援システムへの参加協力を通じて感じたことがあります。まず、高齢者だけがごみ分別に困っているのではありません。誰もが分別に困っている共通の課題であると言えます。そのことから「分別表示がわかりやすく、種類を減らす」、「ごみにならない素材の開発」ができることを私は望んでいます。課題を見つけ、環境が変わるきっかけになればと感じています。

重度障害者だからできないことばかりではありません。今回、重度障害者である私が、高齢者の役に立てるということが参加協力により、実際に経験することができました。IT 技術をうまく取り入れることにより、社会の中で活躍できる場が増えていくのではないのでしょうか。

今回は、高齢者にむけた支援ですが、誰もが分別に困らないように、ごみ分別支援システムが広がっていくことを期待しています。

